

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第2回業務推進全体会合
議事録

日時：平成26年10月24日（金） 13：00～15：00

場所：TKP スター会議室根津

出席者：13名（順不同・敬称略）

木村_浩（PONPO）、足立（元気ネット）、円満字（PONPO）、大石（PONPO）、神崎（PONPO）、
鬼沢（元気ネット）、木村_謙（東大）、篠田（若狭湾エネ研）、竹中（PONPO）、
土田（関西大）、丸山（PONPO）、三谷（原子力コミュニケーションズ）、諸葛（PONPO）

配布資料

- 2-0. 議事次第
- 2-1. 第1回業務推進全体会合議事録案
- 2-2. 平成26年度業務計画書（一部抜粋）
- 2-3. フォーラム全体振り返り資料
- 2-4. シンポジウム案

議題

- 1. 業務の進捗状況
- 2. フォーラム実施の報告
- 3. シンポジウムの計画について
- 4. その他

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

1. 業務の進捗状況（配布資料 2-2）

木村_浩氏より、資料 2-2 に基づき、今年度の業務の進捗状況（フォーラムの実施状況、フォーラム後の分析状況、外部への成果報告等）が説明された。

2. フォーラム実施の報告（配布資料 2-3）

木村_浩氏より、資料 2-3 に基づき、フォーラムの実施状況が報告された。その後、活発な意見交換がなされた。主な意見を以下に示す。

- ・ 原子力専門家が、自身の専門分野以外でも専門家然として話をする姿勢が見られたことは興味深い。
 - フォーラムにおいて、「地球温暖化」がテーマのとき（第 5 回）に見られた。
 - フォーラム以外の場でも、他分野の専門家から、「原子力の専門家にはそういう傾向がある」という指摘を受けたことがある。
- ・ 原子力に関連のある「理系」の分野については専門家のように振る舞うが、原子力に関係のある「文系」の分野にはあまり関心がない原子力専門家が多い。
 - フォーラムにおいて、原子力のコストについて、まともな説明ができる原子力専門家はいなかった。
- ・ 付箋は赤（市民）と青（専門家）に分けられているが、個人の発言との 1 対 1 対応は取れているのか？
 - 1 対 1 対応のデータはあるが、分析担当者のみ閲覧可能にしている。ホームページでは、「何を言ったのか」は公開しているが、「誰が言ったのか」は分からないように加工している。どのレベルまで分析し、発表すべきか、今後検討したい。

3. シンポジウムの計画について（配布資料 2-4）

木村_浩氏より、資料 2-4 に基づき、シンポジウムの計画が説明された。以下に決定事項の概略を示す。内容が確定次第、各方面へのアナウンスを始めることになった。

◆シンポジウム概略◆

日時：2014年12月20日（土） 13：00～16：30

場所：東京大学武田ホール（予約済み）

プログラム：

- ・ 木村_浩氏、土田氏、竹中氏からの成果報告の後、パネルディスカッションを行う。
 - ▶ フォーラムを通じて見えてきた「原子カムラ」のイメージについて、木村_浩氏がコメントする。
- ・ パネルディスカッションのコーディネーターは木村_浩氏。パネリストは土田氏、竹中氏、諸葛氏、森田朗氏（昨年度までの外部評価委員）が決定済み、他何名か追加予定。
- ・ 閉会挨拶はJSTの山本氏に依頼する予定。

4. その他

今後の予定が決定・確認された。

- ・ 第3回業務推進全体会合は12月19日（金）の13：00から行う。各種分析結果の報告が行われる予定である。（シンポジウムの資料確認も兼ねる）
- ・ 第4回は翌年3月に実施予定。業務の取りまとめを行う。（業務推進全体会合は全5回を予定していたが、フォーラム研究会の回数を増やしたため、全4回に変更した）

以上